



題名區小景之圖

尾張也副畢星明六十餘州  
第一名地彌乾坤吞碧海天  
懸日月照金城

尾張と海畢ともかく本之志名の  
久字をこうしつて國と云ふ

一之宮



純原尾坐禪石

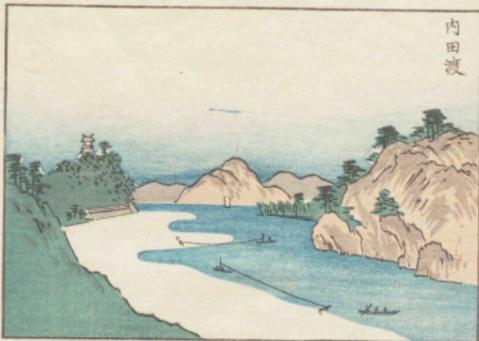


A294



百ノ一

内田渡



船津明神山



名區小景初編卷之下

一之宮

ふ代の経よりきればあつてつれて今いづくわらふはたの井  
たのむらん神のゆくはせんともやうくわらふ世と程もくらん  
名よかふへらのまゐの街は六甲まきの人のたゆまきとねさ  
他もふくはの流かけ流てす八原うま秋の花は月

正次  
國綱  
芳雄  
甫岳

継鹿尾座禪石

月上雲端夜報晴山光水色望分明岨川舟楫半痕  
影一曲灘頭碎有聲

画屏

石林依絶壁苔古尚無埃不見僧趺坐溪雲自去来

坦道

つうのどにまうてよハ法の所れききせしむる石のりぢぢ  
 内田渡

新漲溪山緑春風柳拂航殷勤莫回棹晴色故斜陽  
 け川のゆるりともてても大なるやとまじ山とせひやうら

万葉と一盡島よりしりり

船津明神山

さうをりみつきにねむるよーねはのねれとねむるよ

濱島居

日昇華表柱高映白砂紅七里航灘客先知近大宮  
 舟あつしまゆやとこしし葉ふよりわつこまてりつと旅人  
 夕市の人れゆるふまの海そこの狭むと籍の度もの

文貞

牧山

陸子

月涛

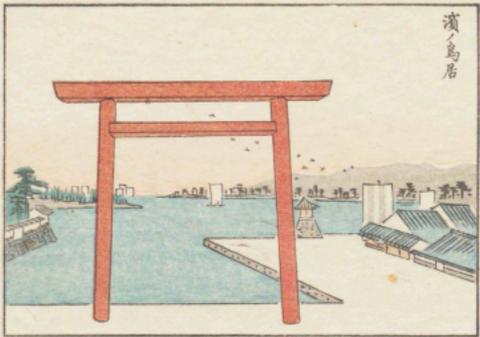
義稻

白鷗

茂岳

吉三彦

濱島居



鹿栗河



半田



甚目寺



半田

涼風のつちんでふき帆舟の部 共雄  
 重月やを病乃月より溪の先 月涛  
 藤栗ヶ洲

入庭より野きのがし山は松を藤栗ヶ洲えふよりりや 道直  
 半田里

け里はちくこのつらみ来てもえん衣の浦とくハリあり 豊水  
 東路のつらねと山と主物くらわもう浦にえゆ富士の根 智建  
 かしあへの煙くらしの橋初せをもむ田の里を旅りよ 麻久  
 土門 女や踏のありのち 光る 杖堂

甚目寺

尾陽佛閣古城邊膠地伽藍篆香烟薩埵降臨幾千 甫岳

載木魚聲響動群賢

いひつりのついでに雲はうられともうらうら小宮の窓さけりなり  
いよへのひらきほけふだにさあし竹の文どをむきの山さ

冬の日にれ様こゝまけりなり 仁王門  
危松くくも吹とふてちふの衆くふ

犬山城

白帝城頭朝霧披水光山色似争奇此中三峽看相  
得徒憶詩論幾促詩

突兀孤城秀女塙明平空仰看英傑地千古有雄風  
かゝめてかゝりて大山の名もきこももほけりなり

岩角よあこつてくふやちくはそき

賢明

敬一

黄山

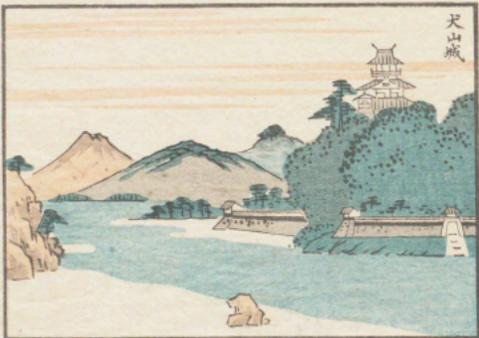
野堂

圓竹

九泉

茂岳

芝石



犬山城



富士百景



川く万仞集の人をけりしききせふくおれし川河く  
 其跡々 何系おれやかあり 月 其雄  
 鴨 二ワ繁とやしくおれりり 馬 眺

秋葉山

穿霧排雲上石榜巽然純頂望將迷東南萬里琉璃 精一  
 水々最高邊天却低

村系山星ハ納りの新あくくうけれ里ハ附而てとり 徳瑞

葛籠岩

屹立勢巖々人呼為九折取形將取皺吾未得其說 梅軒

若栗橋

今も引ふきくわらりの里れ名ハおもこちれてわくねく 重伴



白旗山  
寬島葛籠岩

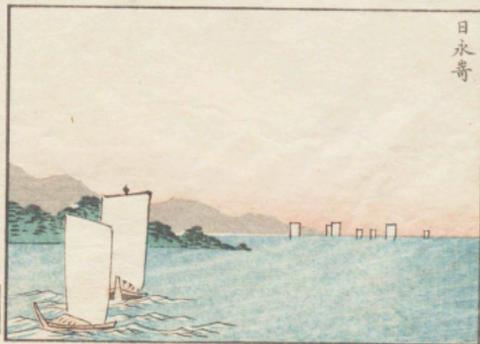


若栗橋

立田



日永哥



ナハ

立田蓮沼

おろろいさく小川の橋をくわへてくらせぬるとし

忠近

溝脰剣鎌正於棋中有芙蓉數十池不啻愛花君子

伯淹

也根供野蕨味尤奇

此多のそこれかこりさひまよもそらけ不吸さくあつりり

千野

くわれきさのり田代かこうけの濁りまよぬきまのち

赤御膳

日永崎

あまのからんやもむわさうらりすむ日昔の傍れ喜の夕あき

正枝

そぬあふるをれさうけりあぬ日永の昔の名いそとさるれ

鈍阿

夕あきに漕りあしかすみつ昔の日をれ砂うくと有け

嘉寛

まゆりさうり吹て昔冢や吹つ

梅裡

日もふくくかり八月のかげり  
光玉

大井湊  
両州山嶺廢水路豁然開此地尤饒富舟船輻湊  
吉田 正徳

玉野川橋ノ瀨

寺曾觀此地為勝概中兄乱石砭如慶似從橋上行  
梅軒

踏んでてはかつかつひきさきさき橋をせつたつ水のふら  
正徳

わたりぬぬらみきまをいさうけうせともあけをらむ  
一清

國府宮

遺廟依松柏居然太古風蒸民仍粒食誰道非神功  
伯孝

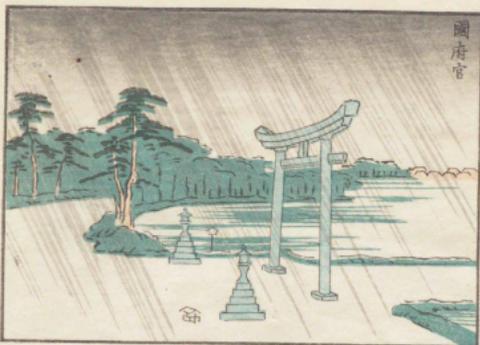
深々靈社殘花紅燈並散花大國宮誰侍東風春日  
甫岳



大井湊



玉野川橋ノ瀨



客黄金為字岳神通

唐錦のや丈か靈のさねをひて必さうえんを民ハ業ゆ

茂岳

月見坂

晚村烟露暗生愁劇草歸來野水頭誰上古城弄明

紫陽

月一聲横玉訴清秋

とみの初ふ里のか乃月又坂夕へくハけ小く小あそ

政資

三日月やきぬこの坂てれき小萩

其雄

宵月やえを握りくりの門配き

旭暉

月おきえんてまききねもあり

馬暁

日間賀島三本松

三株皆偃蓋吹老海門風島嶼秋縹渺布帆如浮空

恬菴

龍洞

五月 廿八日 石堂代吉のよに

甫岳

深淵望嶽然龍去未多年想像先天德青春水若烟

関尾

峇尼頭備題龍洞巖上詩

龍徳不測與世推遷昔頭騰空今潛護洞

全

いづちてあふはららんばりう洞今い水の音をみまうらね

和雄

子世経も朽ぬその名れりう洞いづちのそ水なきの流

道直

かくうひてふくそを経てふ緯の竜もあれう洞也い洞

芳雄

星寄

滝の坂落以かくつるをもえいりや一滝のあ戸の衣を

義教

ちかつちのそ経れとら経て商人もりきりそねそ経の溪

寿平



日間賀三木松



竜洞

星崎沙渚



官田二水



ノ士

かゝくともたふとめをかりの舟を捨ててあふす舟くわいしの浦

正枝

切し秋ハさくさく海や峰 千雀

而右

そ門 秋や夕えて 庭は海人々母

野堂

宮田秋

まふ雨をよみぬんををみやとけし水のまはくあひく民衆

嘉武

民衆のたのむま田のニッハひくくあぬがををを

正明

せきつと本々の川々の月 史て五箇の里小水踏峰

芳雄

豊への君と民とのニッハ氷のま田の苗代の方

赤の御膳

ゆく里の民の乳房とてやてゆき月の杖をまはいて

京井軒

水き月や乳房とあらんうぐり秋

栗壻

尾張富士







岩崎観音

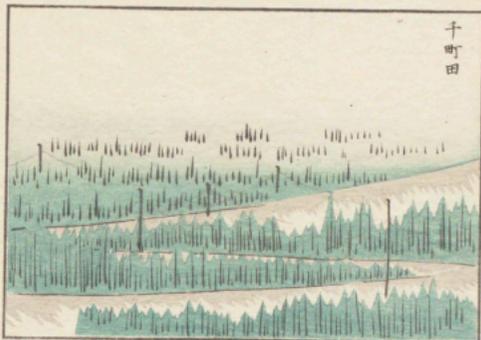


阿波手森

千町田

くさくさをさりしゆきれ　さの舟小あつての長はわかれけり  
 ちりまふあつての長は　しももきまふりりくわくとわかれけり  
 いり　人のまけましまれ　のりまの　さく名のは　さして  
 さく　やあそく　ふ　ひうめ　松　乃　文  
 蘭　田　と　か　て　あ　く　か　れ　ふ　水　鈴　り　り  
 月　む　う　あ　り　く　と　ゆ　り　の　り　く

政　茂  
 貞　足  
 敬　一  
 梅　間  
 馬　眺  
 甫　岳  
 高　茂  
 永　頼  
 徳　隆  
 徳　瑞



常滑神明

下六六

舟の如くを扱ひてこころ思ふも動ともし陸の如

舟もあき 舟のけりきやまき田けり

ひと田つ 世界の遠くかきりく

大粒の雨に花つく陸の那

まふく思甘ふハふれけり

常滑神明山

幸くまかきさくて玉瓶や里とまりの舟のけり

二村山

さしてり二村山のけりて一切まりよあひくれ里

あやみくも芳らちちてれそり二村山ハおきてせり

舟もや舟由し舟ふくすくま二村山ふみらふりり

帆九亭

月底

芝石

馬曉

厭離

知義

相嘉

元久

徳瑞



二村山



海福神社

海福神社

鳴海

くさやの二村山の夕照あすは故人のめどく誠中ん  
 うまくくわたりまけてもかきとやまらふまらふん  
 吹ふまのふくひりーれこむ  
 細うりやとらうくかけうりり

久寧  
 宗利  
 其雄  
 有来  
 光澄

まみ風もませぬ侍いあみほみらけはもゆふをそ  
 さよふちあしりうれい吹かこほ夜屋こてまこしん  
 又くわんくうあみのみくくしあふんあ夕あさのを  
 心かへのほも田圃まあここ移はふのはとすけく新風

智建  
 政徳  
 知紀  
 義教

鳴海



内海



下六

このまぢは風きむくふきくおこのまぢくももはり  
一ひはすわくふくふくくまふひつきのあまのうら  
なすもまぢのまぢくくまふひつきのあまのうら

内海

一望張南海風帆何處舟凌波如百鷺飛入志摩州

あはのうつゝ細の繩うきまふ女とつてあり

むらりをいれ内海から入るのまぢのあまのうら

まふまふつこのまぢのまぢくくまふひつきのあまのうら

くわくわとこの内海より沖へいれ沖へいれ沖へいれ

うらりれ入るのまぢきひておもふまぢくくまふひつきのあまのうら

清須城址

貞足 國綱 基精

徳瑞

全

中人

全

季林

内海里入

昔日曾將麾下兵研吞海内擅英名一朝霸業空蕭  
 弘道  
 索只存松毅奏玉笙

あつりりぞうつりてもつちのふしんのもろとくにばんせの  
 政茂  
 大塚一あつりんものあつりんものあつりんものあつりんもの  
 仲弘  
 代いと狩てとさふなきてふさうなり大塚の注の注のひま  
 正明  
 いたつちの大塚のわたととひこれハ小田の註の身のととと  
 貞足  
 まつりひとまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつり  
 文貞

瀬戸

地無商賈無田圃不似城中不似村戸々家々都範  
 精一  
 玉密烟標斷一乾坤  
 道直  
 万代しんせいのまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつり

清須城址



瀬戸





弘化四年夏五月發兌

畫圖

春江小田切忠近



淨書

上卷

瑞齋梶原昭豊



全

下卷

蘭皋杉本良承



尾張

千歳園藏板



下

卷中人名録

張公畫齋巧拙合流集

通成	オチヨリ	林	又喜	仲敏	三ノ丸	上田栄刀
重好	カチヤ	石永	又吉市	昭豊	五ノヤ	梶原昭豊
雪山	イセ町	神中	三市	惟孝	小牧	又
和雄	杉ノ丁	市兵衛	花	啓	上留	岡田六右衛門
且齋	アツタ	且高	藝夫	守胤	アイチ 丹毛茂中	青山茂徳
道直	向ヤ町	神口	市吉備	宗利	アイチ ノナミ	小坂若吉
梅居	トビシヤ	井杉	信吉	村辭	アイチ ノナミ	宝樹院現任
草屋	トビシヤ	久曾	三市	盛久	イサ 大足	小出信前
一虎	在江ノ	牟根	左吉備	古道	セチヤ 町	永田六吉夫
嘉寛	イサ 寺本中吉	万徳	右現任	鳳文	セチヤ 町	奥田文次市
関尾	イサ 寺本中吉					

忠重	ブイ丁	村上丸九郎	意然	アキチ 井志丁	西条三茶屋
信子	ブイ丁	了瑞多茶助傳	必有	ナリ浦	山崎多伸
鵬居	南天丸町	吾承六右三	眉山	サマノ丁	飯田良茂
琵琶若	山三前	井谷利吾	黄山	南天丸町	吾承美山
鶯室	カクハチ	成術一市	月窓	小橋中島	吾田世良
牧山	大赤見	振ア森庄の	春密	狸堂スチ	築山老雲三
隆山	ビヤビヤ	吾孫三現伝	清行	アサノ中	祖父三現伝
保住	江別 南越出町	停振勘右の	長彦	ニハ 大山	大沙隆景
芸里	上宿	飯之若夫傳	廣信	ナリ 大足	小出礼助
免農	カキチ	大熊忠孝	楚山	ナリ 久村	内後傳志清
伯淹	代丁	児玉一市	雀史	ナリ 可	梧史夙史

忠克	ハナチ	沼井若一進	千時	ヒシキチ	山田敬右の
敬一	カキバ	小出定若	正部	セシキ	浜田清景
九草	カキチ	沙井俊一市	寅亮	代丁	田中虎三市
正次	カキチ キラス	林 兼冬門	智山	ナリ 山田	田中若年
圓什	分 河田	赤徑三現伝	三輪堂	ミヤダ	三輪貞二
紫山	カキチ	浅井董孝市	七曲翁	南天丸町	沙井孝徳傳
白鷗	アツタ	鏡味中要	直政	砂子	栗田筑後
伯孝	七曲ノ	阿部三市	正枝	ヒロコウチ	蒲井真若
宣子	デキ町	八坂市丸の女	忠陳	ガリウ	細井為茂
義輪	スア小林	中尾八市丸の	重躬	手代町	鈴木志七
芳雄	カキチ 中島市	依後若夫傳	應知	登形丁	奥信若二市

馬曉	志水	河口家三郎	快遊	野立	小坂榮治
雜賢	中平時茂	柳沢六一	長翁	イセ町	氷室長翁
嘉武	在京	岩田勉次舟	幸園	ゴウジ	伊藤丈助
錦縁	中七	依才子沈伝	淵源	中七	光吉寺沈伝
直道	中七	小塚花助	直持	中七	小塚理吉
貞足	中七	山内某之舟	國綱	中七	俊色某舟
暉朗	中七	雜谷下平	米枝	中七	俊也舟助
厭離	中七	右田某舟	好之	官町	帆丸沈伝舟
茶朗	中七	右田某二	帆丸寺	イセ町	神我頭某
春蔭	中七	浪本多の浪	松篁	イセ町	坂浦勘舟
甫岳	中七	清島浪舟	東廩	ヨミタラ	増田小舟舟

下六三

元久	中七	外山源次舟	丈之	中七	山村某舟
守公	在江ノ	寺山仲	三丘	某某舟	榎地勢内
義教	中七	石津玄舟	守信	中七	馬場某舟
相房	中ノ丁	西村源之舟	文訓	山ノ舟	前田立碩
月底	ゴク丁	某光舟	精一	中七	條田精一
我竟	上浦	寺島某舟	月涛	北尾	條島安七
有秀	中七	岩島某舟	寛齋	柳町	岩田某舟
浪丸	大足	間瀬文仲	其奉	大足	浪田三舟
正明	中七	林 某舟	画屏	大足	福巖寺沈伝
坦道	中七	东光寺沈伝	文貞	中七	怡川文貞
陸子	杉ノ丁	市岡茂舟	茂岳	中七	桂村某舟

其雄	志水	江口庄	豊水	半田	小栗庄
智建	半田	中津庄	快堂	志水	存古
賢明	中栗田	若原庄	野堂	カネノス	武田清三郎
芝石	七ノ町	千里亭	宗哲	五ノ丁	楊井
列根	オノ田町	小沢路	杜榮	小信中	若田
梅軒	フエノ丁	中山庄	重伴	カスチ	若田
赤柳勝	白土丁	千村庄	鈍阿	下ノ町	平子
梅裡	ムルヤ丁	明梨庄	光玉	アノノ	井田
正徳	フエノ丁	若田	正徳	日蓮	若田
一清	ムルヤ丁	沙屋	紫陽	ヨシノ	若田
政賢	三ノ丸	若田	旭嶂	小舟丁	若田

下田

臨菴	赤野丁	天中	寿年	アノノ	合系
而后	ムルヤ丁	鏡屋	赤井軒	イノヤダ	京口
栗崎	曾田	栗本	暉如	三ノ丁	西台
雲直	三ノ丸	上中	竜屋	兼名町	若田
蘭泉	ヤギ町	枝本	徳隆	カネノス	若田
清貞	オノ田	若田	小馬	オノ丁	若田
政茂	ヨシノ	杉山	梅間	カネノ	若田
高茂	赤野	山名	永頼	三ノ丸	若田
知義	北条	関	相嘉	西ノ丁	若田
久寧	フエノ丁	中津	有米	十ノ川	若田
光澄	タカ	井上	政徳	三ノ丸	若田

知紀	中ノ丁	吾田卷之巻	碁精	ハコイタノ丁	後藤宗二部
中人	馬場	碓氷寺ノ御	季林	中ノヤ	市川甚之助
内海屋	ウヅイ	何某	弘道	中島	奥伝次二
仲弘	赤川東車	小林八景門	咲馬	オズキ	花山 三才
英雀	平田丁	三浦玄光門	南景	オバシヤ	称春子祝儀
常慶	アサヒ	令剛院之	菱湖	六ヶ町	菱屋貞花
南陵	代まで	富永南陔	忠近	久ヤ丁	小田切清之助
			春江		

下巻

尾張名所圖會

前編七巻既刻  
後編六巻近刻

大園 同撰  
梅屋 両大人  
春江 補撰  
諸名家 補撰

名匠小景二編

全二巻近刻

春江 補撰

御湯ふりかへし勝景と撰びて例の八十園とあしつれば諸人の悦ぶ景何  
ところそか及びしもうかぬかえりて之をいふなり

善光寺道名所圖會

全五巻  
近刻

庸園 大人 編述 兵衛 補撰  
春江 補撰

大日本國魏輯話

全三巻  
近刻

春江 撰述 兵衛 補撰  
華溪 大人 補撰

此書ハ魏野とリキと云ひて大ハ高木修 枝本若子云ふ所のこと自伝  
の秘とて一冊七通十冊花かきり隠隠と詳小抄一冊ごと  
いふ一冊を加へて此巻のもて之を以て一冊とすに  
よむべしとの區本あり

右の書はもとよりねえは又新とてしるはれがきしりて書あはれは  
かまへしとてしるはれがきしりて書あはれは

春江 九辨

